

聖徳大学短期大学部

発行 聖徳大学短期大学部
総合文化学科
住所 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550
TEL 047-365-1111 (大代表)
http://www.seitoku.jp/daigaku/
gakka/sougoubunka.html

BISOCIE

Become Independent in Society (社会的自立)

2023年1月30日 NO.15—E

グループ名
チーム本の森

主な内容
古本まつり、常盤平植物マップの作成

はじめに

2022年10月22、23日にわたって開催されたUR常盤平団地での古本まつり。あらかじめ地域の方々から不要な本を回収し、古本まつり当日は無料で持ち帰っていただいた。地域の皆さんとの交流や、SDGsに貢献することを目的としている。当日は、手作りの常盤平植物マップやしおりをお土産に差し上げて、アンケートで感想や意見などもうかがった。予想したよりも幅広い年代の方々が登場し、当日まで開催を知らなかった人達も、催しに気づいて足を運んでくださった。古本まつりは予想よりも遥かに賑わい、大成功を納めた。それまでにしてきた準備や当日の様子、改善点などをまとめた。



常盤平植物マップ

古本まつりのお土産にするために、常盤平植物マップの作成を行った。植物は常盤平団地周辺の公園を中心に調べた。古本まつりの会場を決めるために5月に現地調査を行ったが、それ以外にも何度か常盤平団地周辺に行き、植物マップで使用する植物の写真を撮影した。

初めに出ていた案は、春夏秋冬の植物を撮影する内容だったが、古本まつりの開催までに間に合わないこと、四季の植物の写真を撮影するのは時間的に難しいという意見から、春の植物に限定した。

植物マップは三つ折りで、表面には植物の名前や花言葉、裏面には手書きで書いたマップと花の写真を掲載した。子どもが見てもわかりやすいように心がけた。古本まつり当日は常盤平植物マップを目当てに来場される方もおり、時間をかけて作成してよかったと思った。



古本まつりまでの準備

- 5月** 会場の視察とURの担当者のかたの話聞くために常盤平団地に行った。あいにくの雨の中、集会場を3カ所まわり、後日、人が集まりやすそうな中央集会場に決めた。
- 6月** 本回収用のボックスとして、プラスチック製の収納ボックスに回収の案内を貼り用意した。ときわだから新聞に古本回収の案内を載せてもらうことになり、回収ボックスも団地自治会室の前などに置かせていただくことになった。
- 7月** 広告用のポスターを作り、本の回収を始めた。お土産用のしおりも作成開始。
- 夏休み** 3回ほど本の回収作業を行い、古本まつりに出す本と出さない本の選別をした。
- 9月** 本を文庫本、新書本に分け作者の名前別、五十音順に並べる作業をし、修繕、オゾン消臭を行った。
- 10月** 大学の子ども図書館に行き読み聞かせの本を選び、練習をした。会場の準備として飾りや垂れ幕を作成。インデックス作り、バルーン作り、折り紙を折る等をした。



古本まつり 当日の様子

古本まつりの日がやって来た。初めて行う試みに、私たちも不安で仕方なかった。お客さんが来てくれるのか、とても緊張して待っていた。

いよいよ開始時間の10時。スタッフ一同、スタンバイして待っていると、すぐに何やら外でガヤガヤと話し声が聞こえ、次々とお客さんが来てくれた。受付では、来場者の消毒と検温、アンケートのお願いをした。お土産の常盤平植物マップと手作りのしおりも差し上げた。入場の列は途切れることなく続き、次々とやって来るお客さんへの対応に大忙しで、猫の手も借りたいくらいだった。

呼び込み その後、時間が経つにつれて、お客さんの流れも落ち着いてきたため、スタッフ数名が呼び込みをしに近くの路上に出向いた。「古本を無料でお持ち帰りいただけます!」「お土産に植物マップを差し上げます!」。通りすがりの人に声を掛けると、時々、「今から行ってみますね」という人に遭遇する。呼び込みの効果を実感した。

読み聞かせ 最初に読み聞かせをしたのは、お母さんと幼稚園入学前の幼児、小学3年生の女の子の3人だった。読み聞かせを始めると、女の子はじっと絵を見て聞いてくれた。お母さんは子どもたちに話しかけながら聞いてくださり、小さいお子さんは、プレゼントした風船をぶんぶん回しながら楽しそうに聞いてくれた。せっかく来てくれたみなさんに楽しんでもらえるよう、おもいっきり抑揚をつけて絵本を読んだ。読み終わると、3人ともとても喜んでくれた。

本選び 古本を見に来場したお客さんは、ずらりと並べられた本を、興味津々に真剣にご覧になり、気に入った本を持って満足そうに帰っていった。「この本とても欲しかったので嬉しいです」「また開催してください」など、嬉しい感想もいただいた。

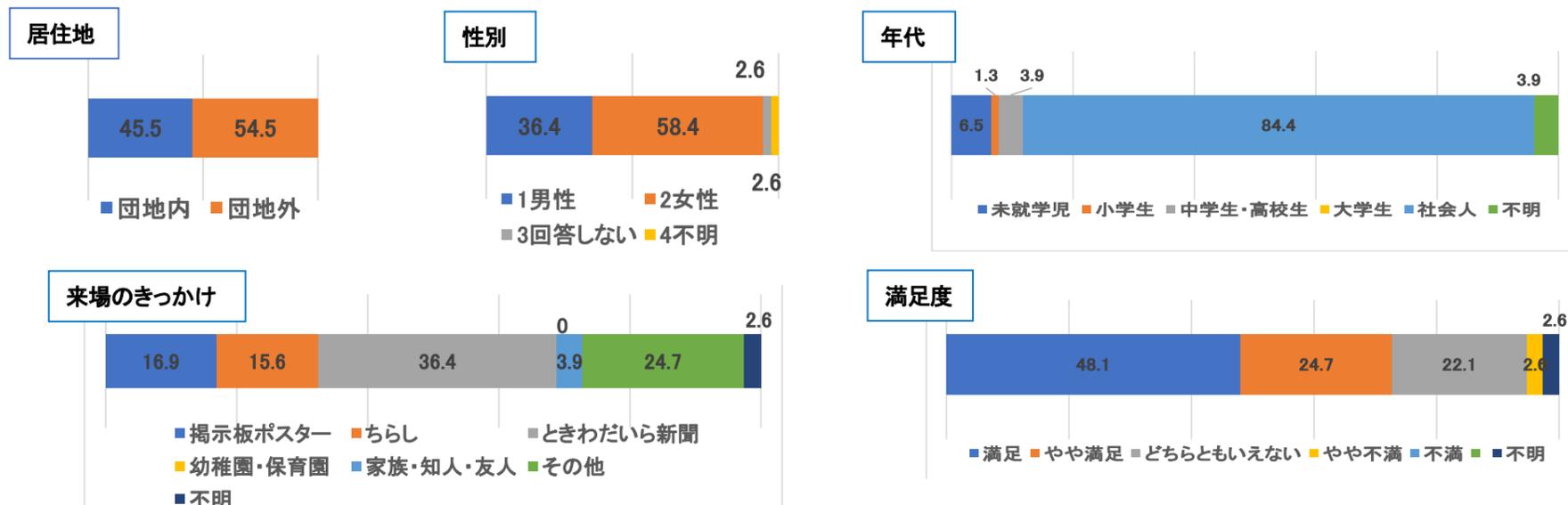
2日目も同様のペースで、始まった途端にお客さんが来てくれた。読み聞かせは初日より多く、合計5組に行うことができた。

予想以上にお客さんが来てくださり、常時、会場はとても賑わっていた。初めての取り組みで、不安の中でのスタートだったが、古本まつりは大成功だったといえるだろう。



アンケートの結果

118名の方のアンケートを集計した。「居住地」は、団地外の方がやや多く、55%だった。性別は「女性」が58%、「年代」は社会人が84%で、とくに中高年の方が来場してくださった。「来場時の同伴人数」では、一人でいらした方が半数以上であった。「古本まつりを知ったきっかけ」は、「ときわだいら新聞」が最も多く36%だった。「古本まつりの満足度」では、「満足・やや満足」を合わせて、全体の7割を占めており、多くの方が満足してくださった。ただ、自由記入欄では「本が汚れていて残念だった」などの感想もあり、今回の結果を踏まえて、改善して行きたい。



編集後記

古本まつりを行った際は、古本だけでなく、折り紙や読み聞かせ、バルーンアートなども好評だった。これらの機会を通じてさらに交流ができるとよいと思う。今後は、古本回収の呼びかけの仕方にも工夫をして、子ども向けの本も集めるなど、本の品揃えがよくなるようにできるとよいと感じた。最後に、開催にあたり、UR都市機構の方々、常盤平団地自治会の方々、そして古本回収に協力してくださった皆様に大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。